

## 「第2期宇部市子どもの貧困対策推進計画（素案）」 パブリックコメントの実施結果について

### 1 実施概要

- (1) 意見募集期間 : 令和4年1月7日（金曜日）から令和4年1月31日（月曜日）まで  
(2) 意見提出者 : 6 人  
(3) 意見等件数 : 11 件

### 2 素案に対する意見と市の考え方

項目	件 数	市の考え方の区分			
		A: 意見を踏まえて計画 案に反映するもの	B: 意見の趣旨がすでに 計画案に反映されて いるもの	C: 今後の参考とさせて いただくもの	D: その他
計画（素案）全体について	2	0	0	2	0
現状及び課題について	1	0	0	1	0
基本施策について	8	0	6	2	0
計	11	0	6	5	0

## 意見と市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。下記のとおり、いただいたご意見に対して市の考え方を回答します。

No.	素案のページ	意見	市の考え方	区分
◆計画（素案）全体について				
1	-	<p>私が実際貧困の方がどこまで大変かはわかりませんが、私も子育てにとてもお金が足りないと困っていますし、不平等だと思っています。</p> <p>貧困の方も大変でしょうが、貧困の方ばかりでなく、子どもが3人、4人という家庭にも目を配っていただきたいと思います！3人目からは特別な手当ができれば産みたいと思われる方も増えると思います。</p> <p>3人目以上の子どもにも貧困の子たちと似たような対策を受けさせるなどもっと手当などをお考えいただきたい。</p>	3人目以上の子どもに対する手当等については、今後の参考意見とします。	C
2	-	<p>全般的に良く出来ている計画である。</p> <p>後は、いかに実行するかであり、関係機関との連携をとるかであると思う。</p>	効率的な実行方法や関係機関との連携については、今後の参考意見とします。	C
◆現状及び課題について				
3	P27	②いつごろから授業が分からなくなったか 中学1年生のころからのウェイトが高く、小学校から中学校に上がる際の転換がうまく来ていないのではと感じる。	小学校から中学校への進学の際の連携については、今後の参考意見とします。	C
◆基本施策について				
4	P47	SC・SSWの配備だけでなく、地域とを結ぶ児童委員・主任児童委員との連携が大切である。	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実については、いただいたご意見を参考に、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置するだけでなく、各地域の児童委員等との連携をより一層進めていきます。	B
5	P48	<p>生活困窮世帯の子どもの居場所づくりに関する支援で、地域の方との交流の機会を提供するなど、子どもが安心して過ごせる居場所づくりを行うとあるが、機会、場所を作っても中々集まってくれないのが現状。</p> <p>対象者へのアプローチが困難であり、どのようにして対象者を見出すか分からないのが現実である。</p>	生活困窮世帯の子どもの居場所づくりに関する支援については、いただいたご意見を参考に、居場所づくりを支援するだけでなく、子どもの居場所の周知や居場所を訪ねやすい環境づくりなど、各地域との連携をより一層進めていきます。	B

No.	素案のページ	意見	市の考え方	区分
6	P48	子ども第三の居場所、のことであれば、日本財団の冠をきちんと書いてもらわないといけない気がします。	「子ども第三の居場所」は日本財団が実施している事業ですが、本計画では、民間の事業者が実施している子ども食堂等も含めた「第三の居場所」を想定しています。	B
7	P59	○民生委員・児童委員等への活動支援 定期的な、情報交換会が実施できなければ前に進まないし、解決の糸口も見つからない。	民生委員・児童委員等への活動支援については、いただいたご意見を参考に、研修会や情報交換会等を通じて、より連携を密にしていきたいと思います。	B
8	P58 ~P61	○子どもLINE連絡経路 現在、「児童相談所虐待対応ダイヤル」という児童相談所へ虐待がされていることを直接連絡できるような取組がされているが、これに加えて、「宇部市子どもLINE連絡経路」の開設を考えた。LINEというSNSアプリを使って、虐待だと断言できるようなことでなくても、近所の子どもなどについて少し気になったことを報告してもらうことができ、その情報を民生委員の方や地域のふれあいセンターの方に共有しておくことで、その子の見守りを強化することができるため、虐待をいち早く見つけることや未然に防ぐことができる。	LINEでの相談受付については、現在、山口県が、「つながる山口SNS相談」として実施しています。 SNSアプリの県との連携については、今後の参考意見とします。	B
9	P58 ~P61	○乳幼児の家庭へ訪問 現在、宇部市が行っている「こんにちは赤ちゃん事業」と連携して、0歳から6歳の家庭全てを、母子推進員の方々が毎年訪問することで、学校に通っていないため見守りのしにくい乳幼児への虐待を見つけることができると考えた。訪問の際には、子どもの見守り・体重測定・親からの相談に乗ること・子育てに関するレクチャーを行い、3歳ぐらいから話始める子どもに対しては日常的な会話を交えて話すことで、子どもの家庭内での様子を把握できるようにする。	現在、宇部市では、保健師やあかちゃん訪問員が、月齢に合わせたパンフレットの配布や保護者の相談事への支援を行っています。 0歳から6歳までの子どもの見守り活動については、今後の参考意見とします。	B
10	P58 ~P61	○見守りの強化 民生委員や母子推進員のほかに、不意に家を訪ねる宅配便の方や、アパートの管理人の方が、家の様子や子どもの状態を軽く観察し、何か異常を発見した場合は宇部市子どもLINEに報告するというような協力を募ることで今まで以上に子どもを守ることができる考える	民間事業者による見守りの強化については、今後の参考意見とします。	C
11	P59	「市役所や病院などにわざわざ行くのは気が引ける。気軽に立ち寄り、ちょっと話せる場所が欲しかった。」ケアラーの声です。たわいのない話から始まり、介護の悩み、グチを聞く。深刻な内容であれば専門機関へ橋渡しをする。そのような場所、子育て世代包括支援センターへ相談に行く前の段階、の確保が急務だと思います。	ヤングケアラーの相談体制の整備については、今後の参考意見とします。	C